

## 狭小骨へのインプラント植立(GBR不要)の工夫 歯槽骨頂鋭縁部も活用するリッジエクспанション

———GBR不要だから、安心・安全・初心者向き。晴れ・痛みも少なく、ドナー部での麻痺もなし。——

### 1 失敗しづらいスリットの入れ方と 用いる他社製の器具

✕ 連続的にバーで削っていく または ディスクでの切削

○ 点状に穴をあけ、約2mm間隔でスリットにしたい線を作っていくから、そこを連続させるべく切削

用いるバー 細三角錐状 超ロング FGダイヤモンドバー プレスリッティングバーFG用 [IパックスMデ](#) 他社製

理由 正確にスリットを付与しやすく、その深さ・方向のコントロールも容易で、修正も比較的簡単ゆえ

### 2 インプラント窩 上縁周囲骨を 窩の拡大をするドリルで破壊せず、温存するための工夫

インプラント窩 上縁周囲骨の直径を、その窩の拡大をするドリルの直径よりもわずかに大きくしてから、そのドリル先端を窩の中に入れたのち、ゆっくりと回転し始めて切削する

理由 そうしないとドリル先端の刃で、インプラント窩 上縁周囲骨削り飛ばしてしまいかねないから

用いる器具 私の場合はOAMキット (前歯部用・臼歯部用など) 使用 ただし、類似の構造の器具であれば可

### 3 安心・安全な “術中CT” に用いる器具の工夫

術中CTの目的は、パイロット孔の方向の妥当性の確認と、このあと予定している径のインプラントを植立するために、あと何mmどの方向に深く切削すべきかのシミュレーション

用いる器具 パイロット孔の径と深さに応じたレントゲン不透過金属製の指標 (長さ4・6・8・12mmなどで、太さは主に直径2mm 形成した窩の直径に応じた太さ3.5・4.7mmゆるいと途中で脱落して危険)

### 4 歯槽骨裂開を防ぐ他社ダイヤモンドバーの使い方

狭小骨骨頂付近は、固い皮質骨であることがほとんど。ただ、下顎の場合舌側骨のほうが固いので、切削のバーはどうしても頬側に流されやすい。つまり、頬側に裂開が起こりやすい。そこで、固い舌側の骨をダイヤモンドバーにてあらかじめ多めに切削しておく。形成している窩の径に応じた太さのダイヤモンドバーを使用

[プラトンジャパン社製 Mサージカルダイヤモンドバー 5本セット ショート・とロング](#)

### 5 HA (ハイドロキシアパタイト コーティング) 部分を 骨縁下に収める安全な最後の手段

窩の底面付近をピエゾ (超音波) サーチャリーのダイヤモンドチップにて切削。これで、安全に切削が可能。ただし、切削効率は悪いことを考えておく。

### 6 位置ずれに悩まされないサーキュラーナイフの使い方

小さめのサーキュラーナイフを用いる

3号の時は、サーキュラーナイフの一部のみを使って、小さな円弧で切る (半円以上にしない)

### 7 サーキュラーナイフで位置ずれを起こしたときのフォローの仕方 (加える切開と縫合の方法)

インプラント体に接する歯肉の一部から縦切開をわずか (1~2mm) に入れて、歯肉弁を縫合によって引き寄せて、隙間の小さくなるようにしていく。

隙間をまたいで縫合するようにして、その隙間を狭めるようにする。

その隙間に血餅が保持されるようにする。

### 8 骨結合阻害要因の排除としての各種 舌面板の製作方法